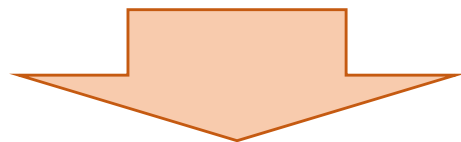


刈払機のヒヤリハット体験調査結果について

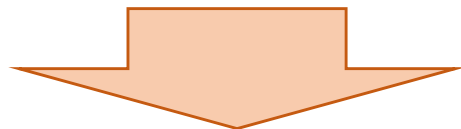
★10月23日に開催した「令和元年度多面的機能支払交付金補修技術研修」で調査した結果を紹介

「ヒヤリハット体験」とは

事故にはならなかったものの、事故が起きても不思議ではなかった、
事故一步手前のヒヤリ・ハッとした体験



自分たちの農作業の中のヒヤリハット体験を調査・分析することで、
今後起こるかもしれない農作業事故を防ぐための危険要因を推定

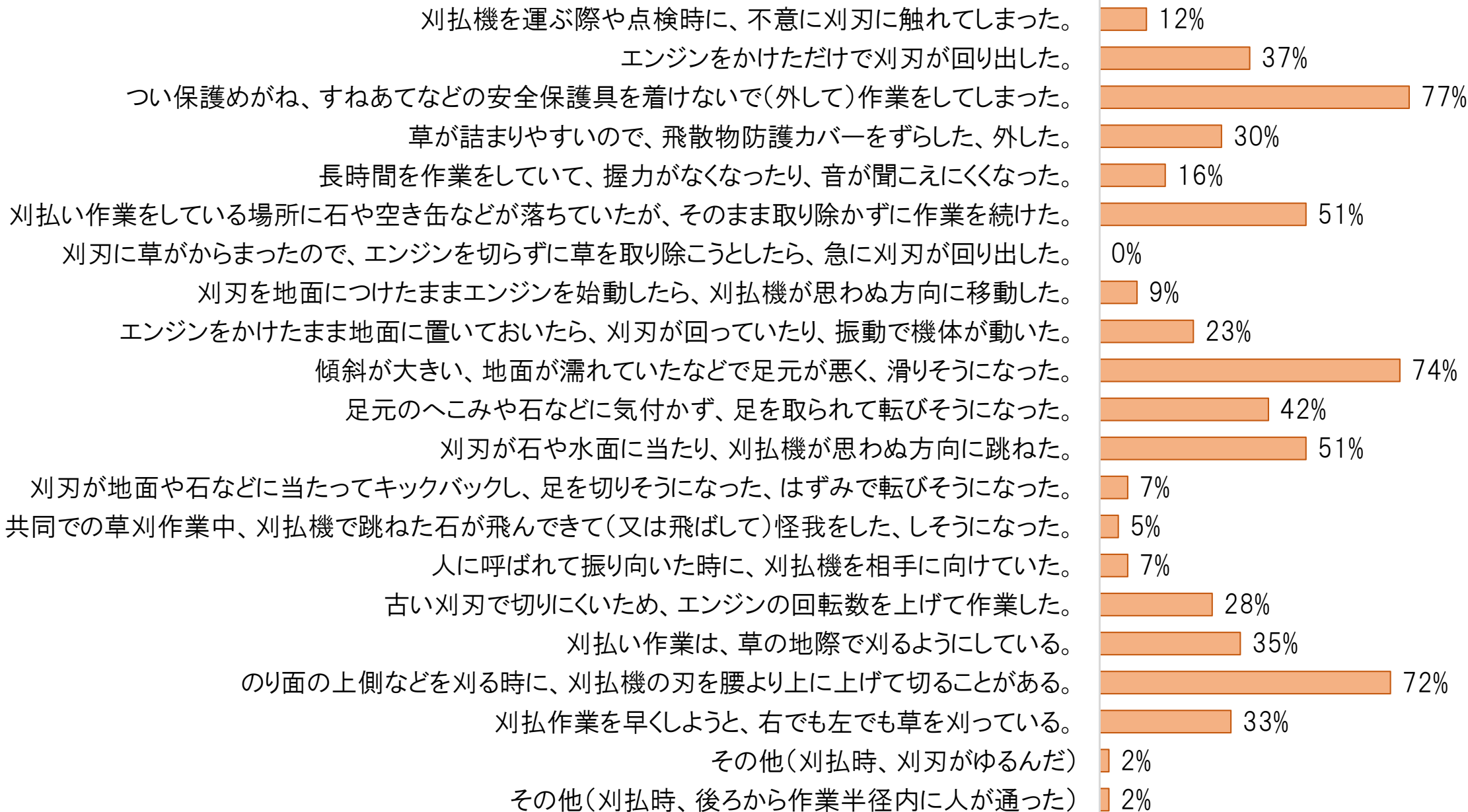


具体的に事故防止のための改善策がたてられる！

できることから改善して
事故のリスクを回避！

刈払機のヒヤリハット体験の割合

(10月23日「令和元年度多面的機能支払交付金補修技術研修」における調査結果 回答者数43名、複数回答)



特に多かったヒヤリハット体験の 事故防止のための改善策①

(10月23日「令和元年度多面的機能支払交付金補修技術研修」における調査結果 回答者数43名、複数回答)

ヒヤリハット体験	体験者の割合	事故防止のための改善策
つい保護めがね、すねあてなどの安全保護具を着けないで(外して)作業をしてしまった。	77%	・石などの飛散物が当たっても怪我をしないよう、長袖・長ズボン・軍手等で作業する。 ・保護めがね、フェイスシールド、ヘルメット、すねあて、安全靴等の安全保護具を必ず装着することを徹底する。 ・刈払機と安全装備をセットで保管するなど工夫する。
傾斜が大きい、地面が濡れていたなどで足元が悪く、滑りそうになった。	74%	・雨上がりや露の残る時間は滑りやすいので草刈りしない。 ・スパイク靴などの滑りにくい靴や後付けのスパイクなどを着ける。 ・傾斜がきつい場所は、小段を設けるなど安全に作業できるような環境整備を検討する。
のり面のの上側などを刈る時に、刈払機の刃を腰より上に上げて切ることがある。	72%	・傾斜が長い場所は、小段を設けるなど安全に作業できるような環境整備を検討する。 ・高い位置で刈払機を操作するとバランスを崩しやすく、キックバックや飛散物があつた際に危険なので、説明書を再度読み、安全な体勢で作業を行う。 ・飛散物防護カバーを適切な位置に付ける。 ・正しい服装(長袖長ズボン)で、安全保護具を着ける。

特に多かったヒヤリハット体験の 事故防止のための改善策②

(10月23日「令和元年度多面的機能支払交付金補修技術研修」における調査結果 回答者数43名、複数回答)

ヒヤリハット体験	体験者の割合	事故防止のための改善策
刈払い作業をしている場所に、石や空き缶などが落ちていたが、そのまま取り除かずに作業を続けた。	51%	・作業予定場所は必ず下見し、空き缶などの障害物は作業前に取り除く。 ・溝や切り株など移動できない障害物がある場合は、障害物があることがわかるよう、棒などの目印を立てる。 ・飛散物防護カバーを付ける。 ・正しい服装(長袖長ズボン)で、安全保護具を着ける。 ・周囲に他の人を近づけないようにする。
刈刃が石や水面に当たり、刈払機が思わぬ方向に跳ねた。	51%	・作業予定場所は必ず下見し、空き缶などの移動できる障害物は作業前に取り除く。 ・溝や切り株など移動できない障害物がある場合は、障害物があることがわかるよう、棒などの目印を立てる。 ・正しい服装(長袖長ズボン)で、安全保護具を着ける。 ・固い地面に当たると刈刃が跳ね返る、石などが飛散するなどの可能性があるので、地際ぎりぎりまでは作業しない。(地際まで作業をしても、1年の刈払作業回数にかかわらず) ・水であっても回転数の高い刈刃が当たったときの跳ね返りは、固い地面に当たった時と同様に大きいので、水面ぎりぎりまで作業しない。 ・水面が見えなくなるほど草が繁茂する前に草刈りをする。 ・正しい作業方法を徹底する(刃の右側で刈るとキックバックしやすい)。 ・キックバックが生じたらエンジンが止まる刈払機、トリガー式スロットルの刈払機など、安全性の高い刈払機を使用する。(固定式スロットルの刈払機を使用しない。)